

# グロービッシュ 1,500語とVOAスペシャル・イングリッシュ 1,500語との比較

## Comparison of 1500 Globish Words with 1500 Words Used in VOA Special English

(2011年3月31日受理)

竹野純一郎 佐生 武彦 橋内 幸子 大橋 典晶  
Junichiro Takeno Takehiko Saiki Sachiko Hashiuchi Noriaki Ohashi

Key words : グロービッシュ, VOAスペシャル・イングリッシュ, 基本単語1,500語, JACET8000

### 概 要

本研究では、グロービッシュで用いられる1,500語とVOAスペシャル・イングリッシュで用いられる1,500語との比較を行った。比較をする際の基準としては、JACET8000を使用した。研究の結果、双方の語彙リスト1,500語の内、約8割の語が相互のリストで重複していることが明らかになった。また、それぞれのリスト単独語彙の平均頻度順位などから、内容が多岐にわたるニュース放送を担っているVOAスペシャル・イングリッシュ 1,500語の方がグロービッシュ 1,500語よりも難易度が高いことが分かった。

### 1. はじめに

世界の国々でGlobish (以下, グロービッシュ) が注目を集めている。日本においても、『ニューズウィーク』や『週刊東洋経済』などで取り上げられるなど、その注目の高さが伺える。グロービッシュとは、1,500語の使用語彙でコミュニケーションを図ることができる平易な英語のことであり、フランス人のJean-Paul Nerriere(以下, ネリエール) によって提唱されている。ネリエールは長年国際的な実業界に身を置いた経験から、英語でコミュニケーションを取る際には、一方が母語話者である場合よりも非母語話者同士の方がより円滑に意思疎通が図れることを発見した。ネリエールは、それぞれの国の英語非母語話者には共通の限界があり、その共通の限界領域がお互いの意思疎通を助ける役割を果たしていると結論付けた。そしてネリエールは、非母語話者の共通の領域、すなわち限られた語彙や言語用法を注意深く記録することによって、それをグロービッシュとして体系化していった。

ネリエールら(2009)は、グロービッシュと英語の類似点と相違点を挙げており、それらの中で特徴的な点は、(1) 最も一般的と考えられている1,500語を用いる、(2) 受動態ではなく能動態を用いる、(3) 一文は15語以内にするように心掛ける、(4) 文化的な背景知識を必要とする慣用句やジョークの使用は避けるようにする、などである。ネリエールは『週刊東洋経済』のインタビューの中でも、グロービッシュを文化や伝統の伝達手段としての言語ではなく、ビジネスで用いる単なるコミュニケーションのための実践的な道具であると述べている。

本稿では、グロービッシュの顕著な特徴の一つである、使用語彙が1,500語に限られていることに焦点を当て、同じく約1,500語の限定された語彙で放送を行っているVOA Special English (以下, スペシャル・イングリッシュ) プログラムの使用語彙との比較を行う。なお、語彙の比較においては、日本で広く認められている語彙リストJACET8000を基準として用いる。

## 2. 研 究

### 2.1 材料

グロービッシュ 1,500語 (Globish1500)

グロービッシュで使用される1,500語の語彙リストはネリエールら(2009)で確認できるほか、インターネット上の有料講座「Globish IN Globish-Interactive Online Course」(<http://www.globish.com/courses>)でも入手することができる。グロービッシュの1,500語を選定する際にはいくつかの頻出語彙リストが比較検討されているが、ネリエールら(2009)や『週刊東洋経済』によると、グロービッシュ 1,500語はVOAスペシャル・イングリッシュの基本単語1,500語をベースにしており、その1,500語に最も類似しているという記述を確認することができる。グロービッシュ 1,500語のリストに載っているのは単語のみであり、品詞や意味などの情報は付加されていない。なお、研究内の記述としては、グロービッシュ 1,500語をGlobish1500とすることがある。

グロービッシュの語彙は1,500語であるが、ネリエールら(2009)はその1,500語を5,000語レベルまで拡大できている。その方法とは、(1) 同じ語を複数の意味で使う、(2) 語を組み合わせる、(3) 接頭辞・接尾辞を加える、(4) 句動詞として使う、などであるが、この件に関しては紹介にとどめておく。

VOA スペシャル・イングリッシュ 1,500語 (VOA1500)

VOA (Voice of America: ボイス・オブ・アメリカ) は、アメリカ合衆国政府が運営する国営放送である。スペシャル・イングリッシュは、VOAの放送の中で使用される一種の簡略化された英語のことであり、そのプログラムでは、世界中の英語を母語としない学習者が理解しやすいように、約1,500語という限られた語彙、短めの文、そして、通常よりも遅い速度でアナウンスが行われる。スペシャル・イングリッシュ・プログラムは、世界中のラジオ局、衛星放送、そして、インターネットを通じて放送されており、科学、医療、教育、経済、アメリカの歴史や生活、そして、最新の世界のニュースを提供している。VOAのサイトによれば、スペシャル・イングリッシュを独特なものにしている要素は3つである。(1) 約1,500語の核になる語彙を用いること。そのほとんどは物質、

動作、感情を表す平易な語であるが、中には難しい語も含んでいる。それらの難しい語は、世界の出来事や医療、科学の発見を表現する際に用いられる。(2) スペシャル・イングリッシュの放送作家は一文に一つの考えを含む短めの単純な文を用いる。能動態を使用し、慣用句(idioms)は使用しない。(3) スペシャル・イングリッシュは通常の3分の2程度の速度で読まれる。このことによりそれぞれの語が聞き取りやすくなり、難しい話題を理解するのを助ける。

VOAスペシャル・イングリッシュ 1,500語は、『VOA Special English Word Book』という形で公開されており、VOAのサイトから無料でダウンロードすることができる。ワード・ブック(Word Book)には、AからZまでの約1,500語の見出し語以外にもSpecial Words and Informationが含まれるが、グロービッシュ 1,500語との比較で用いるのは、Special Words and Informationを除いたAからZまでの約1,500語のみである。ワード・ブックに載っている語(句)には、品詞と意味が付加されている。なお、研究内の記述としては、VOAスペシャル・イングリッシュ 1,500語をVOA1500とすることがある。

大学英語教育学会基本語リスト (JACET8000)

大学英語教育学会(JACET)基本語改訂委員会により、『大学英語教育学会基本語リスト』(英語が「JACET List of 8000 Basic Words」、通称が「JACET8000」である。以下、JACET8000)が2003年に刊行された。JACET8000には、CD-ROM版が付属している。JACET8000は日本人英語学習者のために作成され、リストの8,000語は1,000語ずつLevel 1からLevel 8の8つのレベルに分けられ、各語には頻度順位が1位から8,000位まで与えられている。8,000語に加えて「plus250」というLevel 1を補う250語も用意されている。JACET8000は、約1億語の英国英語のデータからなるBritish National Corpus(BNC)と、アメリカ英語のデータや日本で用いられている英語の教科書・試験問題のデータからなるサブコーパスに基づいて作成されている。JACET8000のリストに載っている単語には、品詞は与えられているが、意味は与えられていない。

## 2.2 方法

Globish1500とVOA1500の使用語彙の比較を、JACET8000を基準として行った。Globish1500に関しては、インターネット上の有料講座から語彙リストをダウンロードして用いた。始めに、Globish1500の語彙リストをJACET8000のCD-ROM版の語彙リストと照合させた。そしてその結果を、インターネット上の「JACET8000 LEVEL MARKER」(<http://www.tcp-ip.or.jp/~shim/J8LevelMarker/j8lm.cgi>)でも照合し、確認を行った。次に、VOA1500についてはまとまった電子データがなかったため、VOA1500の見出し語を一つずつJACET8000の語彙リストに対応させながら照合を行った。Globish1500は見出し語だけのリストであるが、JACET8000には各語に品詞が与えられており、VOA1500には各語に品詞と意味が付加されている。リストの照合の際には、単数形・複数形、時制、品詞などで判断が必要な語がいくつかあったが、著者らで協議を行い調整した。なお、本研究においては、JACET8000の「plus250」に該当する語はLevel 1として扱い、頻度順位は1位とした。また、Level 8を超える語はOver 8として扱い、頻度順位は8,000位としている。また、VOA1500に関しては、実際には1,542項目あり、その中で2語からなる項目が7つあった(air force, civil rights, genetic engineering, nucleic acid, swear in, web site, x-ray)。本研究では、それらを除いた1,535項目、すなわちVOA1500については1,535語を対象とした。

## 3. 結果と考察

本研究の目的は、Globish1500とVOA1500の使用語彙を比較することによって、双方のリストがどの程度類似、あるいは相違しているかを検証することである。結果は、表2、表3、および表4のとおりである。表1は結果を理解するために必要であると考え示した。

表1は、JACET8000の各レベルがどの程度の難易度であるかを表している。『大学英語教育学会基本語リスト』に基づく「JACET8000英単語」(2005)のレベル分けに従ったものである。

表1 JACET8000難易度の目安

JACET 8000	難易度の目安 (JACET8000英単語(2005)による)
Level 1	中学校の基本
Level 2	高校の初級
Level 3	高校の教科書 センター試験 一般社会人の教養
Level 4	大学受験 大学一般教養
Level 5	難関大学受験 大学一般教養
Level 6	英語専門外の大学生 ビジネスマン
Level 7	英語を仕事で使うビジネスマン
Level 8	日本人英語学習の最終目標

表2は、Globish8000を基準としたGlobish1500とVOA1500の比較である。Globish1500とVOA1500のそれぞれの語彙が、JACET8000の各レベルに何語該当するかを「語数」、そしてその語数が全体(Globish1500であれば1,500語、VOA1500であれば1,535語)の中でどの程度の割合であるのかを(%)で示した。表の一番下には、平均頻度順位を載せている。

この表から、VOA1500の語彙の方が概して頻度順位が低いこと、難易度が高いところに多く分布しているということが分かる。このことは、平均頻度順位の結果からも読み取れる。

表2 Globish1500とVOA1500の比較

JACET8000	Globish1500 語数/総語数 (%)	VOA1500 語数/総語数 (%)
Level 1	812/1500 (54.13)	784/1535 (51.07)
Level 2	411/1500 (27.40)	379/1535 (24.69)
Level 3	146/1500 (9.73)	154/1535 (10.03)
Level 4	58/1500 (3.87)	85/1535 (5.54)
Level 5	29/1500 (1.93)	45/1535 (2.93)
Level 6	24/1500 (1.60)	37/1535 (2.41)
Level 7	6/1500 (0.40)	22/1535 (1.43)
Level 8	2/1500 (0.13)	8/1535 (0.52)
Over 8	12/1500 (0.80)	21/1535 (1.37)
平均頻度順位	1278.32	1521.62

表3は、Globish1500とVOA1500の類似性を示したものである。Globish1500とVOA1500両方のリストで重複して現れる語が、それぞれのレベルでどの程度の語数であるかを示している。今回の(%)は、それぞれのレベルで重複して現れた語を各レベルに該当している語数で割った数値である。表3からも分かるように、両方のリストで重複する総語数は1,240語、約8割程度であることが明らかになった。概して、平易なレベルの重複率が高く、難易度が高くなるにつれて重複率が減る傾向があると言えそうである。重複している語の平均頻度順位を見てみると、レベル的には非常に平易なものであることが分かる。

比較的難易度が高くなるLevel 5以上で重複している語を、レベル毎に例示しておく。これらの語の難易度は決して低くはないが、双方のリストで扱われていることから、ニュース、ビジネスなどの場面において重要語であることは間違いないと言える。

表3 Globish1500とVOA1500との類似性

JACET8000	Globish1500 重複語数/該当語数(%)	VOA1500 重複語数/該当語数(%)
Level 1	737/812 (90.76)	737/784 (94.01)
Level 2	318/411 (77.37)	318/379 (83.91)
Level 3	102/146 (69.86)	102/154 (66.23)
Level 4	41/58 (70.69)	41/85 (48.24)
Level 5	19/29 (65.52)	19/45 (42.22)
Level 6	20/24 (83.33)	20/37 (54.05)
Level 7	2/6 (33.33)	2/22 (9.09)
Level 8	1/2 (50.00)	1/8 (12.50)
Over 8	0/12 (0.00)	0/21 (0.00)
全体 (%)	1240/1500 (82.67)	1240/1535 (80.78)
平均頻度順位	1108.94	1108.94

[Globish1500とVOA1500の重複語]

Level 5: ballot, betray, postpone, restrain, crush, moderate, supervise, parade, fog, inspect, wheat, invade, embassy, shrink, suppress, heal, wreck, revolt, offensive (19語)

Level 6: congratulate, starve, rob, diplomat, infect, veto, denounce, rubber, bleed, noon, spy, inject,

boycott, deploy, hostage, jewel, mob, leak, dirt, rocket (20語)

Level 7: pollute, fertile (2語)

Level 8: insane (1語)

表4は、Globish1500とVOA1500の相違性を示したものである。Globish1500とVOA1500それぞれのリスト単独で現れる語が、各レベルでどの程度の語数であるかを示している。今回の(%)は、それぞれのレベルにおいてリスト単独で現れた語を各レベルに該当している語数で割った数値である。この表では、それぞれのリスト単独でしか現れない語を扱っているためか、概して難易度の高い語の(%)が増えている。平均頻度順位を見てみると、単独語に関して言えば、明らかにVOA1500の語彙レベルの方が高いことが分かる。これは1959年以来、1,500語程度の語彙であらゆる分野のニュースを放送してきたVOAスペシャル・イングリッシュ・プログラムの方が、ビジネスや観光でのコミュニケーションに重きを置いたグロービッシュよりも専門的な語が必要であったためであると考えられる。

全く重複していないOver 8の語を例示しておく。ごくまれな平易な語を除いては、いずれも難しい語ばかりであることが分かる。

表4 Globish1500とVOA1500の相違性

JACET8000	Globish1500 単独語数/該当語数(%)	VOA1500 単独語数/該当語数(%)
Level 1	75/812 (9.24)	47/784 (5.99)
Level 2	93/411 (22.63)	61/379 (16.09)
Level 3	44/146 (30.14)	52/154 (33.77)
Level 4	17/58 (29.31)	44/85 (51.76)
Level 5	10/29 (34.48)	26/45 (57.78)
Level 6	4/24 (16.67)	17/37 (45.95)
Level 7	4/6 (66.67)	20/22 (90.91)
Level 8	1/2 (50.00)	7/8 (87.50)
Over 8	12/12 (100.00)	21/21 (100.00)
全体 (%)	260/1500 (17.33)	295/1535 (19.22)
平均頻度順位	2086.14	3256.30

## [Globish1500単独語]

Over 8: cooperate, elastic, equate, evaporate, hijack, miscellaneous, oppress, oust, paste, quart, sneeze, treason (12語)

## [JACET8000単独語]

Over 8: anarchy, astronaut, cooperate, curfew, deplore, disarm, dissident, evaporate, fetus, fission, genocide, hijack, incite, magnet, oppress, oust, repress, sabotage, subversion, treason, zoo (21語)

今回の研究結果から、グロービッシュ 1,500語の方がVOA スペシャル・イングリッシュ 1,500語よりも比較的平易な語から成り立っているということが確認できた。それは、先述したとおり、グロービッシュはビジネスや観光などで用いるコミュニケーションの道具としての役割を果たすことが目的であり、VOAスペシャル・イングリッシュは多岐にわたる分野のニュースを放送しなければならないという役割を担っていることに起因するのであろう。

#### 4. お わ り に

本研究では、グロービッシュの使用語彙とVOAスペシャル・イングリッシュの使用語彙について、類似点や相違点を検証した。最後に、グロービッシュの利点と問題点、そして、グロービッシュとVOAスペシャル・イングリッシュの類似点と相違点を確認しておきたい。

グロービッシュの素晴らしい点は、英語はグローバル語であり非母語話者こそ間違いを恐れずに平易な英語でコミュニケーションを取れば良いという強いメッセージにあるように思われる。実際、日本人英語学習者の問題点の一つに、知識はあってもどの語を選択して良いか分からないということがあがるが、グロービッシュでコミュニケーションを図る際には語彙選択の苦労が減少すると考えられる。一方問題点であるが、『TOEIC Testプラス・マガジン』では、グロービッシュ 1,500語ではTOEICのリスニング・セクションの語彙の50%から65%程度しか合致していないという調査結果を基に、グロービッシュ

はアウトプットには役立つかも知れないが、インプットには向いていないと批判している。グロービッシュでのコミュニケーションにおいては、相手側もグロービッシュを用いるという前提が必要になってくるのである。

グロービッシュもVOAスペシャル・イングリッシュも、1,500語程度の語彙を用いること、短い文を用いること、能動態を用いること、イディオムは用いないことなど、類似点は非常に多い。しかし、一つ大きな違いを挙げるとすれば、VOAスペシャル・イングリッシュは世界の国々の英語学習者に向けて放送し、学習者はそのスペシャル・イングリッシュを聴くというインプットを通じた英語学習、あるいは情報収集が目的であるのに対し、グロービッシュは相互のコミュニケーションを目的としている。自らグロービッシュで発信できたとしても、相手が必ずしもグロービッシュを使ってくれるかどうか分からないというインプットの際の問題が再び浮き彫りになってくるのである。

グロービッシュが本当の意味でのコミュニケーションの道具になるには、ネリエールら(2009)が主張するように、英語母語話者と非母語話者を含めたすべての英語話者が互いに歩み寄りなければならないのであろう。グロービッシュの実践などを今後の研究課題としたい。

#### 参 考 文 献

- J, P. Nerriere & Hon, D. (2010). Globish the world over. International Globish Institute.  
 Voice of America. (2009). Word Book (Rev. ed.). Retrieved January 15, 2011, from [http://media.voanews.com/documents/2009Edition\\_WordBook.pdf](http://media.voanews.com/documents/2009Edition_WordBook.pdf)  
 相澤一美・石川慎一郎・村田年(編)(2005)『「大学英語教育学会基本語リスト」に基づくJACET8000英単語』東京：桐原書店  
 大学英語教育学会基本語改訂委員会(編)(2003)『大学英語教育学会基本語リストJACET8000』東京：JACET  
 「英語じゃなくてGlob・ish」『ニューズウィーク』25(25), 34-41, 2010-06-30, 阪急コミュニケーションズ  
 「特集/非ネイティブの英語術」『週刊東洋経済』(6282), 38-87, 2010-09-18, 東洋経済新聞社

「グロービッシュはこう使え」『TOEIC TEST プラス・マガジン』8(1, Serial No.42), 5-15, 2011-01-01,  
リント